

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

#### フォーラム参加者からのコメント

首都圏住民からのフォーラム参加者

日本原子力学会からのフォーラム参加者

(司会) 引き続きまして、実際に今回の 5 回のフォーラムに参加していただきました、首都圏住民の方、日本原子力学会会員の方から、それぞれお話を頂戴したいと思います。

最初に、首都圏住民の方、お願いいたします。

—— 私は、市民の立場でフォーラムに参加させていただきました。

まず、フォーラムに出るにあたり、どういうことを考えていたかといいますと、私は原子力というものに対して拒絶がありました。でも、福島原発の事故が起こった後、あれも衝撃的でしたが、声にしていかなければならない、何かを言っていかなければいけないという思いがずっとありました。でも、どこにその声を届ければいいのか、とも思っていました。市民というのは、どうすればいいのか、分からないのですよね。

そこでの、このフォーラムでした。アンケートから始まったのですが、アンケートで「原子力」という字を見た途端に、これはやらなければいけないのだ、そちらを向かないといけないのだ、と思いました。そして、フォーラムの参加の通知が来たときに、万歳をしてみました。とてもいいチャンスだと思いました。私のいつもの思いを伝えていかなければいけない。伝える場として、とても大事なところではないか。どういうフォーラムになるか分かりませんでしたけれども、そうではないかという思いで参加させていただきました。

日頃生活している中で原子力の専門家の方に会うことはまずないですし、ましてやお話ができるとは考えていませんでした。フォーラムに参加して、それができました。大収穫でした。今も、その思いは変わってありません。とてもよかったと思っています。

フォーラムに参加して感じたことは、まず、時間が足りなかったなということがありません。

それと、私の中に「原子カムラ」という言葉自体の認識がありませんでした。まったく知りませんでした。私の周りの人も、認識がありませんでした。その中で、それを話し合っていくことはとても難しかったのです。5 回のフォーラムが終わっても、未だに、私にとっては「原子カムラ」というのは不透明なままです。

ただし、このフォーラムで気づいたこともあります。私はもう見事にアナログ人間なのですけれども、だから、会話を通じて分かり合うことがとても大事だということは、ずっと思っていたのです。今回ほど、コミュニケーションの重要性を感じたことはなかった

です。再認識させていただきました。

そして、拒絶という気持ちがあっても、お互いに向き合う努力をしていかないと、前に進まないのだということも感じました。

最後に、今後の研究に対する期待です。これから大変な研究になると思いますが、私たち一般市民が出席できて、コミュニケーションを取れる場所だということ、今回フォーラムで感じたので、これから広げていただきたいと思います。

私は、そこで得たものがたくさんあります。それを無駄にしたくないと今思っています。そして、どこかで役に立てるのだったら、可能な限りご協力もしていきたいと思っています。私にとって、そのくらい有意義な時間でした。どうもありがとうございました。(拍手)

(司会) どうもありがとうございました。

それでは、もう一方、ご参加いただいた首都圏住民の方からお話をいただきます。お願いいたします。

—— こんにちは。私も市民側ということで参加をさせていただいたのですが、事前にこの項目に沿って答えてほしいというものをいただいていますので、それに沿ってお答えしたいと思います。

まず、どういう思いでフォーラムに参加したかということなのですが、期待していたものが3点あります。

1つ目は、非常に下世話なお話なのですが、お小遣い稼ぎでして、参加するといくら謝礼をいただけるということで、それに釣られて参加したという、軽いノリです。

2つ目は、原子力という非常に大きなテーマについて考えるということを通じて、自分の知的好奇心を刺激したかったということです。議論を楽しんだり、新しい発見があったり、気づきがあったり、ということをお求めておりました。

3つ目に、自分の原子力に対する意見について、専門家の方がどのような反応をされるのかということを確認したかったということです。

続いて、フォーラムに実際に参加してみてどうだったかという話です。良い点は、私なりに整理して、4つありました。

1つ目としては、先ほどから再三ありましたけれども、発言ルールが厳格に決められておりました。立場を越えて平等に発言をすることができたという実感を持つことができました。一般市民と専門家が同じ課題に対して、同じ時間で取り組んで、お互いが意見交換をするというスタイルも非常に良かったのかなと思います。1人あたりの発言時間は、長くても3分程度ということで、短い時間で、言いたいことが全て発言できるわけではなかったのですが、ただ、双方向のコミュニケーションを限られた時間で行なう上では、それが良かったのかなと思っています。

2つ目は、専門家と率直な交流ができたという点です。自分が疑問に思っていることを投げかけると、非常に丁寧なご回答やご意見をいただけたと思っております。あとは、インターネットやソーシャルネットワークサービスなどでいろいろな情報が流れていて、私としても、これはどこまで本当なのか分からない、というような情報もあったのですけれども、それについて質問をしたところ、非常に率直にお答えいただけたので、とてもよかったなと思います。

3つ目ですが、フォーラムの開催の間隔が2週間だったのですけれども、長すぎず、短すぎずということで、ほどよい期間だったのかなと思っています。

4つ目ですけれども、結論の押し付けがなかったと思っています。ちょっと疑問を感じる局面もあったのですけれども、最終的には、結論の押し付けがなかったと感じることができました。これが確認できて、フォーラムへの安心感ができたと思います。

あと、悪かった点は、今回のフォーラムは初めての試みだったということで、仕方がないのかなというところもあるのですが、2点挙げてみました。

1つ目は、先ほども仮のテーマと実際に行われたテーマが変わったというお話がありましたけれども、「安全神話を考える」「省エネを考える」という仮のテーマが、最終的にはしっかりと確保できたわけではなかった点です。このテーマがないフォーラムというのは、少し穿った考え方をすれば、原子力を肯定するためのスキームであったと捉えられなくもないのかなと。まあ、後になって、お互いが冷静な意見を言えるようになってから、意見がぶつかるテーマをやるというお話を聞きまして、それもそうかなと思ったのですが。一方で、そういう肯定側と否定側の意見をそれぞれぶつけ合う状況がもう少しあってもよかったのかな、とは思っています。

2つ目は、先ほど竹中さんのお話にありましたけれども、参加当初はこのフォーラムの目的や目標というものがよく分からなかったというのが正直なところなんです。なので、原子力推進のために私たちの一般市民としての意見が取られるのではないかと、という疑念も正直なところ少しよぎりました。その理由として、今考えると、「境界を越える」という言葉が何を意味するかよく分からなかったもので、そうってしまったのかもしれない。その辺りがもう少し明確であったり、もしくは、議論の対象になればよかったのかなと思っています。

次に、フォーラムに参加して気づいたことが5点あります。

1つ目は、原子力の専門家の方が、皆さん揃って論理というものを非常に大切にされているということです。定義づけも非常に熱心でいらっしゃいました。一方で、論理的に矛盾点がなければ、それをもって説明や説得ができると感じていらっしゃるのかな、と思うところもありました。なので、我々一般市民が持っている原子力に対する不安感というのを、専門家の方は認識されていないのではないかとと思うようなところもありました。感情面への配慮というのは、コミュニケーションの観点から考えても、論理と同じくらい大事なのかなと思いますので、その辺りもケアしていただければありがたいと思います。

2つ目ですけれども、専門家の方に、自己の立場を離れて、原子力について非常に客観的に考えていらっしゃる方が大勢いらっしゃったということが、私にとって非常に驚きでした。現場にいる方が個人的な立場で発言をされたら、何となく、一般市民である私と、分かりあえるような気がいたしました。そういう率直なコミュニケーションは、本当であれば、経営陣の方にもお願いをしたいと思うのですけれども、ただ、立場上たぶん無理だと思いますし。あと、原子力を否定される方は、そういう業界では出世できないのかなとも思いますので、なかなか難しいのしょうけれども、そういう率直さというものはほしいなと思っています。隠すことは、不安感や不信感を高めるだけだと思いますので、ぜひ透明性を確保いただいて、信用回復の一步としていただければいいのかなと思っています。

3つ目です。原子力と自然エネルギー、どちらもそうなのですが、良い情報と悪い情報を客観的にまとめたデータや資料が非常に少なく、良い、もしくは、悪いという観点からしか、要は自分の思っていることを補強するデータを集めた資料しかない、ということを感じました。客観的なデータがないと、良い悪いの判断がなかなかできないのではないかと感じました。

4つ目です。原発の専門家の方でも、OBになった途端、原発の現状に否定的な意見を持つ方が一定数いらっしゃったというのも驚きでした。何を意味するのだろうか、と思いましたが、そういうところです。

5つ目に、一般市民として、「原発や原子力は難しいから、専門家に任せる」という発想はよくないのかなと感じました。任せてしまうと、利益関係者の意見だけで物事が決定されていってしまうので、やはり難しいからといって、投げてはいけないのかなと。政治に対する意識と同じような構造があるのかなという気がしたのですけれども、任せちゃいかんというところです。

最後に、今後の研究に対する期待が2つあります。

1つ目は、このフォーラムは事務局の方は非常に手間がかかると思うのですけれども、ぜひ続けていただければと思います。橋渡しの役割は十分に担えるのかなという気がしております。

2つ目ですけれども、原発以外にも複雑すぎるのがこの世の中多いので、「越えなければいけない」ことは他にもたくさんあると思います。なので、専門家と一般市民の相互理解を行なうためのスキームを、こういったものを通じて確立していただければいいのかなと思っています。以上です。ありがとうございました。(拍手)

(司会) どうもありがとうございました。

続きまして、専門家のお立場から、日本原子力学会の会員の方からお話をいただきます。お願いいたします。

—— 専門家の立場で参加させていただきました。専門分野は、最近文科省で評価いただいている、分離変換技術、放射性廃棄物の環境負荷を低減する研究に取り組んでいます。

しばらく前に、仕事の出向先で、様々な立場の方の意見を聞ける機会がありました。ここで、様々な話を聞くことが非常に重要な要素になると感じていたのですが、その経験を踏まえて、このフォーラムの案内が来たときに、異なる立場の方と直接意見交換ができる、貴重な機会になるのではないかと思い、参加を希望しました。それが参加のきっかけです。

特に福島事故以降、一般の方々が原子力に対してどのような思いを持っているのか、あるいは、今後どのようなことを心に留めながら自分の研究活動を進めていくべきなのか、そういったことに対して、何か答えの糸口がつかめればいいなという思いで、参加を希望して、たまたま取り上げていただけたと考えています。

フォーラムの中で一番強く感じたのは、一般の方、特にお子さんがいる立場の方からの、原子力に対する不安、あるいは不信で、そういうものがひしひしと伝わってきました。一方で、説明を尽くしていくことで、漠然とした不安というものは解消するのではないかということを実感できました。これは自分自身にとっても非常に大きな収穫だったと感じています。

先ほど竹中さんから宿題という話がありましたが、自分の意見をデータを示しながら発表する機会というのを1回作っていただきました(第4回フォーラム)。私は当然専門家ですので、アンケートに漏れず、今後のエネルギー利用に原子力は重要ですよというような意見を出して、データもつけてお示ししたのですが、原子力をやめるべきという方からは、「まさに原子カムラだ」というような評価をいただいた一方で、専門家の方から、「ああ、模範解答ですね」とか、「これで一般人が納得すると思っているんですか」というような、どちらかというと冷めた意見をいただきました。専門家の中でも、原子力に対するネガティブなイメージが生まれているということを感じたことも、新たな発見だったと考えています。

私は研究者ですので、少なくとも私の立場で言えば、原子力に対する資源の調達とか、安全、環境といったような様々なリスクを、少しでも低減していく、そういうものを社会に提供していく、仮に困難であっても、それを解決する策をちゃんと編み出していくことが、責務だと思っていましたので、ネガティブな気持ちが専門家の中にもあるというのは、残念だなとフォーラムの中で感じたところではあります。

先ほど、説明を尽くすことで理解を得られうるというお話をしましたが、原子力は、確かに他では使わないような専門用語が多い分野になります。先日も、汚染水の問題で、「放射能の単位の使い方がおかしい」ということを規制委員会が指摘していました。未だにそういうことが起こる場合もあります。実際に、説明していくときの用語も、非常に難しいのは事実です。しかしながら、それで説明することを諦めてしまっていたことがあるならば、それは外から見れば、「原子カムラの中だけでの議論をしているだろう」と見えてしま

うのではないかと感じました。

そういう意味では、という言い方をするのがいいのかどうか分からないのですが、今回のフォーラムで一番不満が残る点は、やはり時間が十分にいただけなかったということです。物理的な時間の制約があることは重々理解の上ではあるのですが、実際にグループワークの中でお話をする機会がなかった方もありまして、正直に言えば、もうちょっと議論の時間がいただけたら、もっといろいろなお話ができたなと思っています。

唯一それが不満で、運営に関しては、先ほどからいろいろお話が出ていましたが、非常に円滑だったと感じています。アンケートに改善提案を書くと、それが必ず次回には反映されて改善されているというような印象を持ちましたので、全体としては非常にうまくリードしていただけたと感じています。

フォーラムを通して、自分なりに、原子カムラとは何であるのか、あるいは、その境界に何が横たわっているのかというのは、漠然とつかめたのかなと思っています。

今後は、この研究を通して、その漠然と感じたものを、他力本願になってしまうのですが、具体化していただけるようなことがあれば、あるいは、それを越えていくのが不可能ではないというようなことを示していただけるようなことがあれば、非常にありがたい。公募研究という限られた時間の中でそれをやるのは非常に大変なことだと思うのですが、今回のフレームの中で、その道標みたいなものだけでも示していただければ、我々にとっても非常に参考になると期待しています。

自分が参加したことがその一助になれば非常に光栄だと思っている次第です。どうもありがとうございました。(拍手)

(司会) どうもありがとうございました。

もう一方、専門家の方からお話をいただく予定だったのですが、交通事情が悪くて、今日はおいでいただけなくなりました。

それでは、これから休憩に移りますが、青い縁取りがしてある質問用紙に、質問事項やコメント、この後のパネルディスカッションで聞きたいことなどがありましたら、お書きください。2、3分お時間を取ります。スタッフが集めにまいますので、お渡しいただければと思います。

回収後、20分間の休憩にいたします。それでは、よろしく願いいたします。